少人数教育の充実に向けた実践事例集

子どものよさやつまずきを意図的・計画的に
見取り、支援し、認めて
一人一人を生かすふくしまの教育

平成３１年３月　福島県教育委員会

目　　次

１　自ら学び、「学ぶ楽しさ」「わかる・できる授業」を味わう子どもの育成
福島立笹谷小学校

２　担任・副担任の役割分担を明確にした少人数指導
須賀川市稲田小学校

３　少人数指導と少人数学級のよさを生かして
中島村立滑津小学校

４　「親和的な学習集団づくり」を基盤とした個に応じた指導の充実
喜多方市立塩川小学校

５　教員一人一人の強みを生かした合同授業
南会津町立田島小学校

６　一人一人の学習状況を捉えた少人数学級による実践
相馬市立飯豊小学校

７　学級の枠を越えた少人数教育
いわき市立郷ヶ丘小学校

８　対話・家庭学習の充実～見取りによるきめ細かな指導～
大玉村立大玉中学校

９　少人数学級・指導で英検３級取得率５０％！
～町雇用講師との連携を図りながら～　古殿町立古殿中学校

10　目的に応じたＴＴ指導と習熟度別学習の使い分け～数学科の授業において～
白河市立東北中学校

11　タテ持ち・コース別学習でやる気アップ
会津美里町立高田中学校

12　ビブリオバトルを通した表現力の育成
南会津町立田島中学校

13　生徒の多面的な見取りとＩＣＴを活用した個別指導
新地町立尚英中学校

14　少人数教育を生かしたキャリア教育の推進
いわき立中央台北中学校

■　平成３１年度学校教育指導の重点

自ら学び、「学ぶ楽しさ」「わかる・できる喜び」を味わう子どもの育成
～第４学年算数科における少人数指導の取組～

福島市立笹谷小学校

１　少人数教育のよさ

本校第４学年の算数科では、少人数指導補正教員を含む３人で単元の特質や内容に応じて学習指導を行った。学年の教室に隣接する別教室を日常的に活用しながら、学習形態や指導体制を工夫することにより、一人一人の実態に応じたきめ細かな指導を行うことができる。

【指導体制の例】

○「垂直・平行と四角形」
　…三角定規や分度器等の操作方法の確実な習得を図る、均質な少人数指導

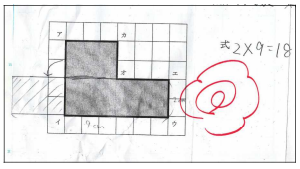
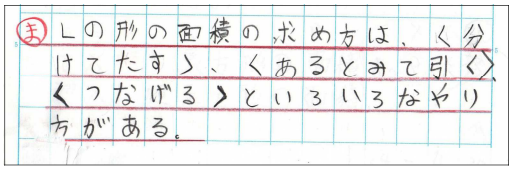
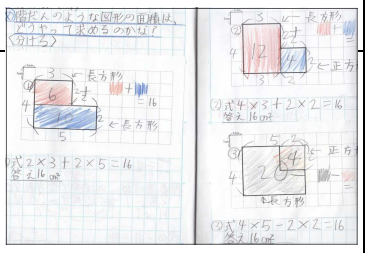
○「わり算の筆算」「面積のはかり方と表し方」
　…習熟度や思考力、表現力の実態に応じたコース別学習

２　取組の内容

○　コース別学習
　「面積のはかり方と表し方」（５時目／総時数１１時間）
　〈複雑な図形の面積を求める時間の授業実践から〉

【授業スタンダードとの関連】

単元を構想する上で、多様な課題解決方法が考えられる本教材の価値と、習熟度の差が大きい学年の実態から、習熟度別学習〔コース別学習〕を行うことで、確実に身に付けさせたい学習内容を明確にすれば、一人一人の思考力や表現力に応じた学びを展開することができると考えた。

コース	授業の実際
ホップ （基礎） １５名 １組担任	自力解決の場面では、掲示物による既習内容の振り返りや補助線の活用など、教師による支援を受けながら自分のペースで落ち着いて考えることで、概ね「分ける」「移動する」方法で面積を求めることができた。補助線の位置を比較しながら話合いを進めたことで、「どの方法も長方形や正方形にしている」ことに着目しながら考え方を交流し、既習の公式を使って面積を求めることのよさを共有することができた。 
ステップ （標準） ２６名 ２組担任	導入における既習事項の確認により、「長方形や正方形の公式に当てはめられないか」という見通しをもって自力解決に取り組むことができた。複数の考え方を発表させ、自分と「同じ考え方」「異なる考え方」に着目させながら、話合いを進めることで、「多様な考え方があること」「どれも既習の公式を使っていること」を理解し、類型化してまとめることができた。 
ジャンプ （応用） ２６名 少人数 補正担当	既習の公式を使って求めるという見通しをもち、自力解決の段階で、概ね複数の考え方を出すことができた。その結果、話合いの場面は様々な求積方法について、自分の考え方と比較しながら理解を深めることができた。適用、発展問題に取り組む際には、「これは分けた方がよい」「付け足して考えたほうが分かりやすい」など、既習の公式を当てはめ、より効率的な求積方法を見いだす姿が見られた。 

３　実践して見えてきた少人数教育のポイント

○　教師による個別の支援や児童同士の学び合いの充実

（例）学習状況の丁寧な見取りによる教師の適切な助言、少人数を生かした児童同士の学び合いにより、作図のための三角定規の操作方法を習得できた。

○　「コース別学習」による学習形態や指導体制の工夫

（例）ホップコースを他コースより少ない人数で編成したことで、自力解決に必要な指導を机間指導で十分に行うことができた。

（例）習熟度の高いジャンプコースでは、児童の話合いをつなぐ教師のコーディネートにより、児童同士で多様な考えを比較、検討して考えを深めることができた。

担任・副担任の役割分担を明確にした少人数指導

須賀川市立稲田小学校

少人数教育のよさ

本校では、２年生３１名を１学級で編制し、少人数指導（学級担任と加配教員による）体制で学習指導や生活指導にあたっている。３０人学級編制で２学級の場合と比べ、学習形態を工夫することができ、学習課題の選択の幅も広がるなど、子どもたち一人一人へのよりきめ細かな指導が可能となっている。

取組の内容

少人数指導計画のもと、学級担任と加配教員が役割を分担し、それぞれのもつよさや特性を生かしながら学習・生活指導や事務処理等にあたっている。

学習指導においては、主となって指導する教科を分担し、ほとんどの授業で少人数指導を実施している。

【担任・副担任の役割分担】

主として学級担任の役割	主として学級副担任の役割
◯学年経営方針の立案	◯学級（学年）通信の作成
◯学級経営誌の作成・記入	◯出席簿の記録・学年統計
◯学級経営誌指導個票の作成・記入	◯学級会計の管理・処理
◯指導要録（指導の記録）の作成	◯学年時数の管理
◯学級（学年）通信の作成	◯指導要録（学籍の記録）の作成
◯学習指導（T1として指導する教科等）	◯学習指導（T1として指導する教科等）
＜算数科・生活科・音楽・道徳＞	＜国語科・図工科・体育科＞
	◯他学年の学習指導（分科）
	・5年図工
	・6年家庭
◯生徒指導　◯生活指導　◯家庭訪問	◯個別懇談　◯学級懇談　◯家庭との連携

授業の内容によっては、単元や１単位時間の中で習熟度別やコース別・課題別学習を取り入れ、少人数による個に応じた指導の充実に努めている。

児童への２回の学習アンケートからも少人数指導による学習への意欲の高まりなどがわかる。

＜自分の力でトライ＞
（トラ美ちゃんコース）

＜先生と一緒にトライ＞
（チコちゃんコース）

【国語科　～作文指導の授業より～】

実践して見えてきた少人数教育のポイント

◯　自校化した授業スタンダードをもとに、少人数指導におけるより効果的な授業構成を児童の実態を踏まえながら考えること。

◯　役割を明確に分担して指導にあたるとともに、教師自身が日常的にお互いの指導について学び合うこと。

◯　児童の学びの事実を大切にし、柔軟に臨機応変に学習形態を変えること。

◯　授業の振り返りを大切にし、児童一人一人の学びについて見取ったことを確認し合い、事実にもとづいて評価すること。

ねらいをもって授業形態を変える

少人数指導と少人数学級のよさを生かして

中島村立滑津小学校

少人数指導の取組（1学年で実施）

取　組

① ２人の教員で、**教科ごとに主担当を決めて**指導を行う。

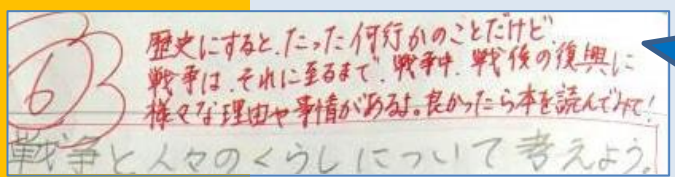
② **学力の二極化をなくす**ため、教師２人で１授業をＴＴで行う。

効　果

① 教科担任制に近い指導体制により、教員の**専門性を生かした授業**が可能になった。

② 児童一人一人の求めに応じた指導、特別な支援を要する児童に個別指導を実施したことにより、学習意欲が向上し、二極化の軽減につながった。

③ **児童に関わる時間がより多く生まれ**、丁寧な朱書きにより児童の学習意欲を高めることができた。



保護者と教師の朱書きを通して，児童を深い学びに導いたり、学び方を指導したりしている。保護者からも子に寄り添った朱書きがされるようになってきた。

少人数学級の取組（2学年・5学年で実施）

取　組

理科主任による発展学習

① １組・２組の**児童を入れ替えての授業**を行った。

② 主に、技能教科で**学年ＴＴによる合同授業**を行った。教科や学習内容に合わせてＴ１を替えて授業を行った。

③ 算数などの教科では、習熟度別に分けた学年授業を単元末や学期末に行った。Ｔ１、Ｔ２に加えて、**Ｔ３を配置**し、３コースでの習熟度別学習も実施した。

④ 教科主任が**発展的な授業**を行ったり、つまずきの見られる児童の**取り出し指導**による丁寧な指導を行ったりした。

効　果

① **少人数加配を戦略的に活用**して様々な授業形態をとることにより、児童が活躍する場やつまずきを解決する場が増え、学習意欲の向上に結び付いた。

ポイントと成　果

○ 少人数学級における**担任の授業のよさ**と少人数指導における**教科担任制による授業のよさ**の両方を効果的に得るために、**目的に応じて学習の形態を考えていくことが大切**である。

○ ２人で教材研究し、互見授業する機会が増えたことで、**教師の授業力は確実に向上**している。

○ 教師１人あたりの児童数を減らすことを目的にしない。複数教員のメリットを生かしながら、**児童に何を体験させ、何を学ばせるか**を考えて学習形態を工夫していくことが効果を高めるポイントである。

「親和的な学習集団づくり」を基盤とした個に応じた指導の充実

喜多方市立塩川小学校

少人数教育のよさを生かす

本校の1年生の人数は69名であるため、少人数学級を選択し、児童数23名の3学級とした。少人数のよさを生かして、児童の実態をきめ細かに把握し、一人一人に応じた手立てを講じやすくした。また、きめ細かな見取りにより、つまずきの早期発見と個に応じた指導を充実させるようにした。

3年生以上の学級では、算数科の重点単元を設定し、T・T 指導及び習熟度別学習を取り入れた。

さらに、全校で学びの基盤となる「親和的な学習集団づくり」に力を入れ、個と個、個と集団の相互作用を発揮させながら、少人数教育の効果を高める取組を行っている。

取組の内容

「10の問題」を使った実態把握（4月に実施）

1　きめ細かな見取りと積み残しの解消

（１）学びの必要条件としてのレディネスを整える

子どもは「自分は何ができないのか・何ができるようになりたいのか」、教師は「この子は何ができないのか・何を教えたらよいのか」を明確にして、以下の取組を行っている。

① 各学年の四則計算問題を10個に絞ったテスト（「10の問題」）で、個々のつまずきを把握する。

② 放課後に「学習会」を開設し、学習の積み残しを解消する。（県サポートティーチャーの活用）

2　思考力・判断力・表現力を育む「対話的な学び」の充実

（１）重点単元での少人数指導の充実

３年生以上に算数科の重点指導単元を設定し、Ｔ・Ｔ指導及び習熟度別学習を実施している。

（２）対話的な学びが充実する授業づくり

① 自校化した「学びのスタンダード」の活用

ア「書く→話す→話し合う」過程の確実な実施

イ　学びの実感を味わわせるまとめの充実

② 対話の対象を明確にし、対話の目的や形態、方法、対話のツールを効果的に位置付けた授業の充実（図１，表１）

③ 学びを実感できるまとめ、振り返りの工夫

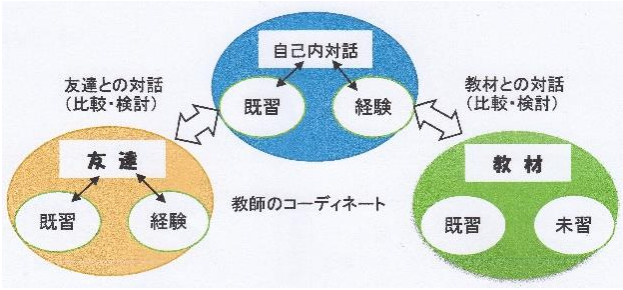


図１：対話の対象

	対話の内容・目的	対話の対象	対話のツール
導　入 （自己内対話）	・既習事項 ・はてな？や解決のイメージ	・自分（既習事項や経験） ・先生、教材	・学習コーナー
展　開 （自己外対話）	・自分の考え、友達の考え ・知識の深化、拡大 ・見方、考え方の育成・友達（考え方や知識）	・教材 ・友達 ・先生	・数直線プリント ・図や式　等
ま と め （自己内対話）	・板書（本時の学び） ・学びの実感、明確化	・自分 ・教材	・学習感想

表１：対話を充実させる手立ての視点

ペア、グループで比較検討する場の設定

3　学び合い高め合う親和的な学習集団づくり

① 規律ある生活態度・学習態度の育成

② 子ども同士の学び合いで高め合う集団づくり

③ 自治的な学級集団を育む「スマイルタイム」の実施

④ 自己効力感を高める「なかたくタイム＊」の実施

＊「なかたく」とは、「なかよく、たくましく」の略称

学級目標の達成度を可視化することで、子ども達がよりよい学級づくりを話し合う「スマイルタイム」

場面、内容、形態を工夫し、互いのよさが実感できるようにする「なかたくタイム」

実践して見えてきた少人数教育のポイント

○　一人一人の実態に応じた「わかる・できる」授業、きめ細かな指導の充実

１年生のアンケート結果では、「授業が分かる」が約９９％、「進んで発表している」が約９３％となっていた。学校全体で見ると、アンダーアチーバーが半減し、オーバーアチーバーが倍増した（Ｈ２９）。全国学力・学習状況調査では、全ての領域で全国平均を上回り、特に算数Ｂ問題では大きく上回っていた（Ｈ３０）。個人及び集団の実態に基づき、一人一人に思考する場、ペアや集団で比較検討する場を効果的に位置付けた授業づくりを行うことが大切である。

○　一人一人の自己効力感と学級集団の自治力を育む

全校児童アンケートでは、「みんなで学習すると分かる」が９６％、「自分にはよいところがある」は、９０％、「学級は居心地がよい」は９３％であった。自分の考えをはっきり言える自信や、友だちと伸び伸びと検討し合える学習集団づくりにより、個と集団の相互作用が高まるとともに、学力も高まるものと考える。

教員一人一人の強みを生かした合同授業

南会津町立田島小学校

少人数教育のよさ

本校は、１学年（２学級・各１６名）と３学年（２学級・各１７名）で少人数学級を進めており、「よさ」を次のようにとらえている。

１　児童一人一人に応じた、きめ細かい学習指導・生徒指導ができる。
２　各児童の相互理解を深めることができる。
３　同学年の１・２組合同の授業では、Ｔ・Ｔ指導のメリットを生かすことができる。

取組の内容

少人数教育の学習指導の取組において、１・３学年での共通の重点を次のようにした。

「少人数学級」であり「２学級」であることの強みを生かす。国語・算数等主要教科では、少人数の集団できめの細かい指導を行い、体育、生活、総合的な学習の時間、音楽等では合同授業でＴＴ指導を積極的に取り入れ学習効果を高めるようにしていく。

＜具体的な取組～ＴＴ指導を中心に～＞

■各教員の強みを生かしたＴ・Ｔ指導

１年１組担任は栽培・調理が、１年２組担任はＰＣが得意である。生活科の野菜栽培と調理では１組担任が主となって指導し、ＰＣを活用したまとめと発表では２組担任が主となって指導した。

３学年総合的な学習の時間「子ども歌舞伎」の取組では、前年度までの取組について詳しい１組担任が主として指導にあたった。また、２組担任は得意教科である体育で主として指導にあたるなど、各教員の強みを生かすとともにＴＴ指導でその充実を図った。

＜１年生活科のＴ・Ｔ指導＞

■体育でのＴＴ指導

準備運動や身体プログラムを T1 が行っている間、T2 が諸準備を行うなど、効率的に安全な場の設定や用具の準備を行った。T1・T2 共に学年の児童の実態を把握しているため、学級の枠を超えた個別指導においても効果的であった。

■音楽でのＴＴ指導

鍵盤ハーモニカやリコーダーの指導では、個人差に応じるため、技能別に班分けをして指導してきた。

学年全体で練習しているときに、つまずきの見られた児童を集め、T2 が個別に取り出し指導をするといった柔軟な対応も効果的であった。

実践して見えた少人数教育のポイント

○　日頃から様々な場面で学級間の連携を深め、各学級担任が「学年」の担任という意識を持つと共に、児童にも同様に意識させること。
○　各担任の強みを積極的に生かしたＴＴを行うこと。
○　学級の枠を超え、各担任が学年の各児童についての理解を深めること。
○　学習訓練の内容、学習進度等、担任間で共通理解を図った日常的な指導が重要である。

一人一人の学習状況を捉えた少人数学級による実践

相馬市立飯豊小学校

少人数教育のよさ　*共に学び、高め合う親和的な学級をめざした個に応じた指導・支援の充実*

本校では２学年、３学年、６学年で少人数学級を取り入れ、１学級１７～３３名で編制している。その中で、各学級担任は児童一人一人の実態や課題を的確にとらえ、個に応じた学習指導及び生活指導をていねいに行うことができ、次のような成果が見られる。

○　児童は落ち着いた雰囲気の中で意欲的に学習に取り組み、児童の課題に応じた指導により学習内容の定着が図られ、各種学力調査において学力の向上が見られる。

○　担任が児童の様子をとらえ、その状況に応じた適切な指導・支援を行ってきたことで、hyper-QU でほとんどの学級が親和的な学級集団という結果が得られた。また、不登校児童は０名である。

取　組　の　内　容　*本校の重点目標「進んで表現し、高め合おう！」の実現をめざして*

１　授業力の向上　～表現力の育成をめざした授業実践～

本校は相馬地方小教研算数部の研究推進校として研究に取り組み、教員の授業力の向上をめざしている。「授業スタンダード」を活用しながら、「目的を明確にしたペアやグループの話し合い」「教師のコーディネート力の向上」に重点をおいて授業研究を行っている。また、学年や単元に応じてＴＴや習熟度別指導を取り入れるなど、指導方法を工夫し個に応じた指導の充実をめざしている。

２　スキルタイムの実施　～基礎・基本の定着と活用力の向上～

少人数を生かした取組として、学習内容の定着の程度など児童一人一人の実態をとらえ、日々の授業での指導に生かすために次のことを行っている。

○　国語の基礎問題（火曜日）と計算５０問チャレンジ（木曜日）を朝１０分間行っている。計算５０問チャレンジでは、学期・年間のパーフェクト者を表彰する。

○　国語・算数の活用問題を水曜日の昼に１５分間行っている。学期末にまとめテストとして、チャンピオンテストを実施する。チャンピオンテストは、事前に範囲を知らせ、自主的に学習が進められるようにし、９０点以上の合格者を表彰する。

３　家庭学習チャレンジ週間の実施　～自己マネジメント力を育てるために～

保護者と協力して年８回実施し、家庭学習の習慣化を図っている。「みずほっ子家庭学習のてびき」で示したメディア利用時間と学習時間について目標が達成できたかを保護者と児童が確認してカードに記録する。それをＰＴＡ教養委員が集計して結果を各家庭に知らせている。家庭と連携を図ることで児童の自己マネジメント力の育成をめざしている。

４　計画的な教育相談の実施　～児童の悩みや問題の早期発見と適切な対応～

学期ごとに教育相談といじめ・悩みアンケート調査を実施し、児童の状況把握に努めている。また、hyper-QU を６月と１２月に行い、その結果を学級経営に生かすとともに、児童一人一人のデータを細かく分析することで、いじめの早期発見や不登校の兆候の発見に生かしている。学習や生活において課題を抱えている児童については、生徒指導協議会やケース会等により全教職員で共通理解を図り、指導・支援に当たっている。

実践して見えてきた少人数教育のポイント

児童一人一人の課題に応じた「わかる」「できる」を実感させる授業実践

担任が授業やスキルタイム等から児童一人一人の学習状況をとらえ、つまずきや課題に応じた指導を行うことができた。授業研究を通して授業改善に取り組み、また効果的にＴＴや習熟度別指導を行うことで、児童が「わかる」「できる」を実感しながら学習に意欲的に取り組み、その積み重ねが学力向上につながった。

児童のよさを「認め、励まし、称賛する」かかわりによる親和的な学級集団づくり

スキルタイムや家庭学習での取組、係や委員会での活動など、児童のがんばりや成果をとらえ、それを認め、励まし、適切に評価することを心がけてきた。また、教育相談などで児童の悩みや課題をつかみ、その解決に向けてかかわってきた。それらのことが、児童一人一人の自己存在感や有用感などを高めることにつながり、児童が共に学び、高め合う親和的な学級集団となった。

「チーム学校」として教師間の連携・協力を図った組織的な対応

生徒指導上の問題の早期発見と適切な対応は重要である。担任一人だけに任せるのではなく、課題を抱えている児童や配慮を必要とする児童について学校全体で共通理解を図り、ＴＴや習熟度別指導、個別指導など、教師間の連携・協力を図った組織を生かした対応が大切である。「チーム学校」としての取組が少人数教育の効果を高めることにつながった。

学級の枠を越えた少人数教育

～　いわき市立郷ヶ丘小学校　～

少人数教育のよさ

本校では、少人数教育のよさを
①一人一人に目が行き届くきめ細かな指導ができること
②個に応じた指導により学力の向上を図れること
③少人数を生かした望ましい集団づくりができること
と捉え、このことを年度初めに校長から全職員へ説明し、共有化を図った。

取組の内容

①　担任の専門性を生かした教科指導

３人の担任の専門性（体育、音楽、算数）を生かして指導にあたった。体育や音楽では、学年合同授業での師範や専門的技術指導により、児童の意欲を引き出し、技能を高めることができた。算数科では、現職教育を通して教材研究や授業の準備、そして、授業の展開等を工夫することができた。また、学級担任が同じ単元でそれぞれのクラスを順番に授業をし、その都度、協議・検討をすることで研究が深められ、児童へのより効果的な指導ができた。さらに、音楽や算数の専門性のある学級担任が、３つの学級を順番にまわって授業を行うこともした。

②　体育科におけるコース別学習と安全管理

水泳や跳び箱運動などの授業では、学年合同で実施することで、３つのコースに分かれての学習が可能となった。１年生の水泳では、顔を水につけられない児童が初めはとても多く、泳げる児童は少なかった。そこで、顔を水につけられるようにするコース（アヒルさんコース）、水の中で浮くことができるようにするコース（ニモコース）、泳ぐことができるようにするコース（スイミーコース）の３つに分けて指導した。児童のレベルに合わせて無理のない活動をしたことで水を怖がっていた児童も徐々に顔がつけられるようになっていった。回数を重ねていくごとにアヒルからニモ、ニモからスイミーとコースをあげていく児童が増え、顔を全然つけられない児童はほぼいなくなり、水泳指導を終える頃には、２５メートルを泳ぎ切る児童が各学級に数名いた。児童一人一人がレベルアップをすることができ、達成感も得られた。また、担任３人と支援員の計４人の目があることにより、安全に活動することができた。

③　生活科による町探検や１年生と２年生の交流

町探検では、担任が３人いることで、児童の希望を生かしながら大きく３つのコースに分かれて地域の事業所を探検することができた。コース毎に担任が付き添うことで安全に活動することができた。また、１つの班が４人という少人数で探検することで、意欲的に質問したり調べたりすることができた。各クラス毎に実施した１・２年生の交流（秋祭り）でも、少人数のため、教室のスペースを使い十分な活動をすることができた。

【教師の声から見えた成果】

○　少人数教育により、ふくしま「授業スタンダード」に書かれている授業の基盤（「望ましい人間関係」「教師の姿勢」「学習規律」）を意識して授業に臨むことができた。
○　授業において、児童一人一人に声をかけながら机間指導をしたり、まるつけをしたりすることができるので、一人一人の見とりがしやすかった。学習が遅れがちな児童を把握しやすいので、つまずきに素早く対処することができた。
○　休み時間に教室で個別指導をする際にも、他の学級の教師が校庭に出て、児童の安全を見守ることができた。
○　３人の担任が互いの学級の情報を交換して連携して生徒指導をすることにより、学年全体が落ち着いて生活することができた。
○　国語の音読や発表など、皆の前で話す機会を多くとることができた。入学当初は、人前で話すことが苦手だった児童も、今では自信を持って話すことができるようになった。

実践して見えてきた少人数教育のポイント

○　少人数教育の制度がなかった場合の状況と比較しながら、少人数教育のよさを意識した実践に取り組むこと。
○　他クラスの情報を共有しながら、学級の枠を越えて教師の専門性を生かすこと。

対話・家庭学習の充実～見取りによるきめ細かな指導～

大玉村立大玉中学校

1　少人数教育のよさ

（１）学習面

○　生徒一人一人の課題への取組状況や学びの姿、つぶやきなどを丁寧に見取ることを通して、学習の過程でつまずいている生徒を把握し、個に応じたきめ細やかな指導を行うとともに、生徒の考えを引き出し、話合いをコーディネートすることができる。［授業］

○　自主学習の質の向上（家庭学習の内容・方法の改善）に向けた具体的な指導を行うことができる。［家庭学習］

（２）生活面

○　生徒の声に耳を傾け、学級活動や道徳の授業だけでなく、教科の授業においても、自己決定の場や自己存在感、共感的人間関係を味わうことができる場面を数多く設定し、親和的な学級集団づくりをすることができる。［学級経営］

○　生徒理解がしやすく、生徒と教師の良好な信頼関係を構築することができるとともに、問題行動等の未然防止に努めることができる。［生徒指導］

2　取組の内容

（１）対話の充実［「授業スタンダード」の活用］

○　授業の追究・解決の場面での対話

・　全ての教科や学級活動、道徳の授業で、ペアやグループ、スタンドアップ方式による話合いや説明の場を設定するとともに、**ＴＴ等による丁寧な見取りを行い、生徒の論理的思考や批判的思考を促した。**

・　ディスカッションボードやキャンディ・チャート等を活用して可視化した**生徒一人一人の思考の変容をＴＴにより丁寧に見取り、コーディネートした。**

【　学習の約束　】

（２）家庭学習の充実［「家庭学習スタンダード」の活用］

○　授業と家庭学習の学習サイクルの確立

・　「おおたま学園」学習習慣検討委員会で作成した「学習の約束」と「家庭学習の習慣を身に付けよう！」を基に活用型の宿題を提示し、「（予習・復習を行う）家庭学習」→「（家庭学習を生かした）授業」の学習サイクルを確立するとともに、**ＴＴを生かして一人一人の家庭学習の内容を見取り、学習の成果や取組を振り返り、確かめる場を設けた。**

【　家庭学習の習慣　】

3　実践して見えてきた少人数教育のポイント

生徒一人一人の学習や生活の様子を丁寧に見取り、生徒一人一人を適切に評価し、指導することがポイントである。

○　ＴＴによる指導体制により、対話の充実を図った実践では、話合いにおける生徒の思考の変容を複数の視点から捉え、教師のコーディネートによって生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に迫ることができる。丁寧な見取りは、学習の深まりが見られる生徒への称賛や、つまずきのある生徒への具体的な支援につながった。

※ＴＴによる授業や習熟度別学習を行う際にも「授業スタンダード」に示されている「見る」「観る」「診る」「看る」の４つの視点からの見取りを用いて情報交換をし、その後の展開に生かすと効果的である。

○　家庭学習の充実を図った実践では、授業中に宿題の実施状況等を見取り、本時の授業での発問につなげることができた。

少人数学級・指導で英検３級取得率５０％！

～町雇用講師との連携を図りながら～

古殿町立古殿中学校

１　少人数教育のよさ

本校では、どの学年の生徒も１学級２０～２５人で授業を受けている。少人数学級を選択することで、学習面・生徒指導面ともに一人一人に目が行き届き、きめ細かな指導が可能となっている。

【３年英語科の授業のようす】

２　取組の内容

(1) 英語科における取組

英語科は２名（教諭・講師）の教師と町雇用の特別非常勤講師１名（週５日勤務）の３名で１～３年生すべての学年において、週３時間程度でＴＴの授業を実施している。

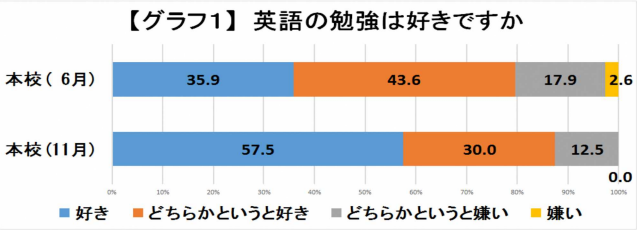
英語科では、授業内容の打合せの時間を十分に確保するとともに、ワークシートの作成や補充問題の作成など、教師間で役割を分担して指導に当たっている。また、ＡＬＴが勤務する週２日間の授業は、「話すこと」「聞くこと」に重点を置いた授業内容になるように授業の展開を工夫している。

また、本校では古殿町の助成により、全生徒が実用英語技能検定を受検している。授業以外でも、始業前や放課後などを利用して個別に指導することにより、３年生は５０％以上の生徒が３級を取得している。

【町講師・ＡＬＴによる支援】

(2) 生徒による授業評価

本校では、生徒に年２回実施する「学習に関するアンケート」に、「（教科名）は好きですか」「（教科名）の授業はどれくらい理解していますか」の質問項目を追加した。各学年・教科においてアンケート結果を集約し、教師が自分の授業を振り返る１つの指標としている。【グラフ１】は「英語は好きですか」という３年生への質問の結果で、「好き」「どちらかというと好き」と回答した生徒の割合が７９．５％から８７．５％へと大きく増加している。これは、英語科が取り組んできた授業改善の成果といえる。



３　実践して見えてきた少人数教育のポイント

(1) 教師の授業改善と指導力の向上

①　本校では、県で示している「授業スタンダード」に沿って現職教育の研究主題を掲げている。教師個々が授業改善に取り組み、指導力を高めるとともに、生徒が主体的に学ぶための授業づくりに努めることが大切である。

②　３０年度は現職教育委員会の呼びかけで、学期に各１回「互見授業」ウィークを設定した。授業展開のアイディアなど、他教科の授業から学ぶことは多く、今後も継続していくことが大切である。

③　生徒による授業評価は、教師自身の授業を振り返る上で貴重な指標である。

(2) 個別支援の工夫と充実

○　少人数学級の特性を生かし、生徒個々の実態やつまずきを十分に見取ることが大切である。その上で、個を伸ばすための計画を立て、戦略的に支援することが大切である。

少人数加配の効果を高めるために

目的に応じたＴＴ指導と習熟度別学習の使い分け

～数学科の授業において～

白河市立東北中学校

第1学年でのTT指導

目　的	中学校入門期の差がつきやすい数学科において、きめ細かな指導により**中１ギャップを解消する**。
取　組	加配教員が週２時間１９人のクラスに入り、２名の教員でＴＴ指導を行う。
効　果	一人一人に目が行き届き、つまずきを早期に発見できるため、**数学を苦手と感じる生徒が減少**している。
ポイント	ＴＴの役割の明確化 ①　Ｔ１が一斉指導を行っている際にＴ２が理解の不十分な生徒に支援を行う。 ②　毎時間授業の始めに行う既習事項の確認の指導は、Ｔ２が中心になって行う。

第3学年での習熟度別学習

目　的	生徒の力量にあった指導が可能となり、特に、数学を得意とする生徒の学力をさらに伸ばす。
取　組	２クラスの数学を２つにわけ、**標準クラスでは丁寧な指導を、上位クラスではより発展的な問題に取り組む機会**を与える。
効　果	数学を苦手とする生徒の**学力の底上げ**と、数学を得意とする生徒の**学力の高まり**を同時に進めることができた。
ポイント	生徒の**意欲の向上、維持**のために ①　標準クラスは個に応じた指導に重点をおき、生徒自身の**満足感、自己肯定感**を高める。上位クラスは発展的な問題に**挑戦する意欲**を高める。 ②　上位と標準クラスを**学期ごとに編制**を行う。

＜数学における指導体制＞

	指導形態	クラス人数	主な効果	主な効果
１年	ＴＴ （週２時間）	１組 １９人	２組 １９人	○　つまずきの早期発見ときめ細やかな対応 ○　中学校入門期のつまずき（中１ギャップ）の解消
２年	通常学級	１組 ２３人	２組 ２４人	○　毎学年異なるクラス編制による変化
３年	習熟度別	上位 ２６人	標準 ２５人	○　標準クラスでの丁寧な指導による下位層の底上げ ○　上位クラスでの発展的な指導による上位層の伸び

成　果	この取組を始めたのは平成２７年度からである。 平成２８年度以降、全国学力・学習状況調査の数学において、**Ａ、Ｂとも、全国平均を継続して上回っている**。

タテ持ち・コース別学習でやる気アップ

会津美里町「じげんくん」

会津美里町立高田中学校

少人数教育のよさは？

学力向上に関する本校の課題として、２極化や学び合いの不足などがありました。

そこで、少人数教育のための加配として数学科の教員を配置していただき、少人数学級で編成した各学年の３学級を再編成して３コースに分け、数学科教員３名が同時に授業を実施するという、タテ持ちのコース別学習を取り入れてみました。

ねらいは？

○　自分自身がコースを選ぶことで、今まで以上に自主的に学習しようとする意欲を高めることです。他生徒に合わせた「足踏み」を少なくして学び合いを充実させることもできます。

○　自分のペースで学習することで、「分かったところ」「分からないところ」などをはっきりさせて復習をしやすくするねらいもあります。

方法は？

単元毎に単元テストと次単元のコース選択のためのアンケートを実施し、３つのコースに分かれて授業を進めています。

＜文珠コース＞　基礎的・基本的な内容を自分で身に付けることを目標に学習するコース
・教科書の「例題」「たしかめ」を中心に、丁寧に学習します。

＜御田コース＞　基礎的・基本的な内容を学習しながら、少しずつ応用・発展的な学習をするコース
・教科書の「たしかめ」を確認し、「問題」「学習ノート」を進めます。

＜伊佐須美コース＞　応用・発展的な内容を中心に、つまずきやすい所なども学習するコース
・教科書の「たしかめ・問題」を確認し、「学習ノート」や発展問題に時間をかけます。

成果や課題は？

○　各コースとも、自ら選択したコースという自己決定意識が見られるようになり、学び合いの場面での生徒の話し合いが活発になりました。

○　伊佐須美・御田コースでは、「再生」「換言」「要約」など共有化の時間を多くとったことにより、表現力や理解力が向上してきました。

○　教室への移動中や放課後など、短時間でも教科部会の打合せをもったり、授業を互見したりすることで互いに向上しようとする機会が増え、教科担当者の授業力の均衡化が図られました。

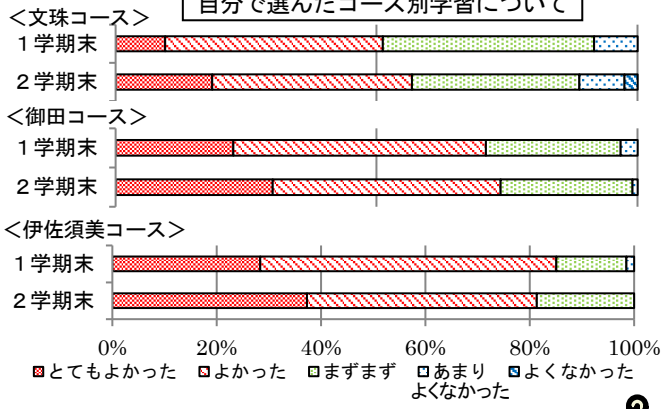
●　各コースの進度を調整する方法や評価をさらに工夫する必要があります。

●　自分を客観的に判断できないと、コース選択が友人関係に左右されやすいです。また、新入生は元学級で基本的な学習訓練を身に付ける時期も必要です。

生徒アンケートから

○　コース別学習は自分に合ったところが選べてよい。（文殊）
○　数学が分かるようになってきた。（文殊）
○　友達の考えやノートの取り方が分かり、数学の苦手意識がへった。（御田）
○　自分で集中してやる時と、友だちと相談し合う時のメリハリがついて、問題が分かりやすくなった。（御田）
○　色々な意見が出て納得しやすい。（御田・伊佐須美）
○　難しい問題を解いた時の達成感から、前より授業が楽しくなった。（伊佐須美）

自分で選んだコース別学習について



少人数教育のポイントは？

○　コース別学習は生徒のニーズに合っている（自分に合ったペースで学習できる）。
○　習熟度がほぼ同じ学習集団はつまずきが似ており、互いに相談しやすい。
○　タテ持ちは教科担当者の均衡化や指導力向上につながる。

ビブリオバトルを通した表現力の育成

南会津町立田島中学校

１　少人数教育のよさ

（１）教師一人あたりが担当する生徒が少ないため、生徒一人一人の実態を詳細に把握することができる。

（２）学級における生徒一人一人の個別の活動に対して、より多くの支援をすることができる。

（３）生徒一人一人が自己表現できる時間と機会を多く設定でき、生徒個々の能力を高めることができる。

２　取組の内容

○　少人数学級における小集団活動やペア活動、個人の活動を生かし、学校全体の行事へ結びつけて、学校の課題（表現力）解決に結びつけた。学校全体で毎朝取り組んでいる読書活動を、全校生徒参加の「ビブリオバトル」に結びつけた。

（１）全校生徒で毎日行う朝読書

↓

（２）各学級の国語の授業でのきめ細やかな指導

↓

（３）各学級での「ビブリオバトル予選会」

少人数の学級であることを生かし、各学級の国語の授業で全員が参加しての予選会を行った。

↓

（４）学校全体での「ビブリオバトル」

①学級での予選会を勝ち抜いた各学級代表生徒による決勝戦

※各学級代表生徒１名、合計８名での「ビブリオバトル」

②その後の読書活動への意欲付け

「来年もやりたい。」「来年こそは学級の代表になりたい。」などの感想が聞かれた。

（学級での予選会）

（代表によるビブリオバトル）

３　実践して見えてきた少人数教育のポイント

（１）学校全体の課題の共有

①全校で取り組むべき課題を把握すること。（表現力の育成）

②学校の課題について、生徒も教職員も理解すること。

③少人数教育の視点から、課題把握の糸口を探ること。そして学校全体で取り組むこと。→ビブリオバトル（学級での予選会→代表によるビブリオバトル）

（２）少人数のメリットを最大限生かす

①生徒一人一人の発表の時間を確保することができること。（学級での予選会）

②全員が参加することができること。（学級での予選会）

③生徒一人一人に個別に指導しながら、個を生かす方法を考えることができること。（日々の授業）

生徒の多面的な見取りとＩＣＴを活用した個別学習指導
～新地町立尚英中学校～

１　少人数教育のよさ

少人数教育では、一人一人の生徒の特質や実態を早く把握することができ、個に応じた指導を行うことで学ぶ意欲を喚起することができる。そのため、本校では少人数学級を選択し、各種テストや検査から生徒の実態把握と分析を教師間で丁寧に行い、生徒一人一人の実態に合わせた指導ができるよう配慮している。

２　取組の内容

①生徒一人一人の実態を多面的に把握する

・　全国学力・学習状況調査、ふくしま活用力育成シート、CRTの各種学力調査だけでなく、**リーディングスキルテスト**（国立情報学研究所が開発した新しい読解力調査）、**ＧＰＳアカデミック**（問題発見・解決に必要な思考力を測定できる調査）などを実施している。

少人数学級だからこそ、担任が結果を時間をかけて丁寧に分析し、一人一人の生徒の苦手部分を把握することで、ポイントを絞った的確な指導につなげることができている。

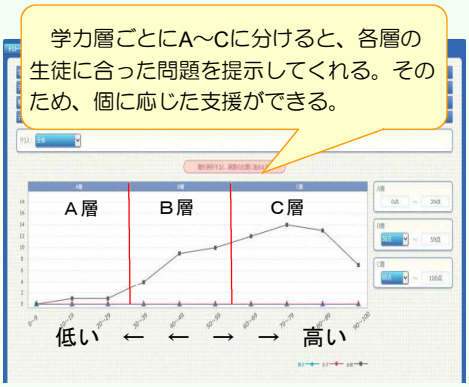
・　校務支援システム等の活用により、定期テスト結果やWEBQU（PC等で行うQUテスト。結果をすぐに確認できる。）による人間関係の把握など、様々な情報を教員全体で共有することができ、データを柔軟に分析しながら一人一人の個性を認めて意欲を喚起する指導に役立てている。

【国語科での個別指導】

②ＩＣＴを活用した個別学習

・　①の分析結果から学力層を分け、**ｅライブラリ**（デジタルドリル）で各層に応じた問題を個別に取り組ませている。PCの持ち帰りによる家庭学習では、個々の実施状況（実施回数・正答率）を教師が学校で把握できるようになっており、家庭学習への取組のアドバイスも的確に行うことができる。

・　年２回の学習個別相談や週１回３０分の放課後の学習会を全学年で実施している。学習会ではeライブラリの活用による補充や教科担当への質問会等も行い、個に応じた指導を実施している。



【eライブラリのレベル分け画面】

３　実践して見えてきた少人数教育のポイント

○　少人数だからこそ、実態や課題の把握をきめ細やかに行うことが可能となり、効果的な学習指導につながる。

○　生徒の実態から、教師が身につけさせたい力を明確にイメージできるようになり、質の高い指導につながる。

○　少人数により、一人一人の活動の場面が確保され、得意なことを認め励ますことで体験的・協働的な活動も充実する。

●　少人数を生かした集団づくりにもつなげていけるよう、今後はデジタルＱ－Ｕと学習アプリとの連携による見取りにも力を入れていきたい。

例えば、リーディングスキルテストの結果から、「推論（問題文から論理を用いて正しく判定する力）」は全国平均とほぼ同じか上回っており、「照応（省略してあるものが何かを正しく読み解く力）」が全国平均を下回っているため、正しく判定する力はあるものの、正しく文章を読み取れないという課題があることがわかった。普段の授業でも、文章の読み取りをていねいに指導している。

少人数教育を生かしたキャリア教育の推進

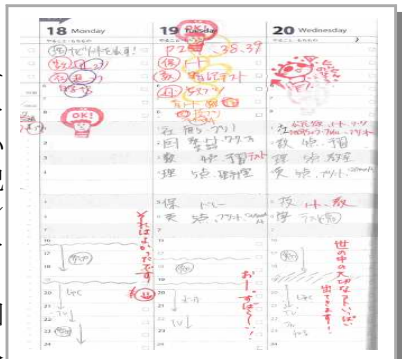
いわき市立中央台北中学校

少人数教育のよさ

本校は平成２８年度より、キャリア教育を基盤とした学校経営を推進している。キャリア教育推進のためには、生徒が自己を振り返る時間と教師が生徒に関わる時間の確保がポイントとなる。本県少人数教育により、個別指導と学級集団の指導との間でバランスが保てる規模の学級集団を構成することができ、教師が一人一人の子どもたちと関わる時間を増やすことが可能となっている。

取組の内容

(1) 自己マネジメント力を向上させるため、本校ではフォーサイト手帳（目標管理ノート）を平成２９年度より採用している。生徒は学級活動の時間に記入し、ＲＶＰＤＣＡマネジメントサイクルにより、達成状況を自己チェックしている。また、担任がコメントを朱書きし、個別指導を行うことで、生徒一人一人の「基礎的・汎用的能力」の高まりを見取っている。



フォーサイト手帳の採用

自己マネジメント力の育成のための場の設定と個別指導

(2) 少人数学級と少人数指導とを組み合わせることにより、３年間学級の規模を変えずに指導することを可能とした。これにより、生徒一人一人にかける個別指導の時間を確保することと、学級集団を指導する時間も確保することのバランスを保てるようになった。

「基礎的・汎用的能力」の高まりと学力向上の関連性

右上は全国と比較したフォーサイト手帳アンケートの結果である。結果から、本校生徒は自ら学習する姿勢が身に付き、学習時間も大きく増えていること、計画力や先を見通して行動しようとする意識が向上し、成長実感を伴った自己肯定感も高まっていることが分かった。

また、右下は平成２８年度より本校で実施してるキャリア教育アンケートの結果である。フォーサイト手帳を採用した平成２９年から数値が向上している。平成３０年度は少人数学級と少人数指導とを組み合わせ、学級担任が生徒にかかわる時間と生徒が自己を振り返る時間を確保できたことにより、さらに値が向上している。

生徒一人一人に対する学級担任の丁寧な見取りが「時間の意識」「計画性」「忘れ物の減少」などの好ましい学習習慣を形成し、それに伴い全国学力・学習状況調査の平均正答率も改善が見られている。

フォーサイト手帳見える化レポート

貴校におけるフォーサイト手帳活用による主な効果

【能動的学修】主体性・能動性の向上が見られ、自ら学習する姿勢が身についています。
【学習習慣】学習習慣が身に付き、生徒の学習時間が大きく向上しています。
【時間管理】時間を大切にしようとする意識が大きく向上しています。
【見通し力】先のことを見通して行動しようとする意識が大きく向上し、計画力が高まっています。
【自己肯定感】振り返りの繰り返しによって多くの生徒が成長実感を持ち、自己肯定感が高まっています。

	強く意識するようになった	意識するようになった	少し意識する	変わらない
1 時間を意識するようになりましたか	8%	41%	34%	17%
	83%が時間を意識			
2 計画を立てることを意識するようになりました	16%	41%	31%	11%
	88%が計画を立てることを意識			
3 忘れ物が減りましたか	22%	40%	23%	15%
	85%が忘れ物が減ったと回答			

キャリア教育アンケート　平成28年から平成30年までの推移【学校全体】

年度	項目	人間関係形成社会形成能力			自己理解自己管理能力			課題対応能力			キャリアプランニング能力			平均
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
H28	6月	8.4	8.1	8.2	7.7	7.3	7.2	7.6	8.1	7.1	7.4	7.3	7.6	7.7
		8.2			7.4			7.6			7.4			
	12月	8.3	8.1	8.1	7.6	7.3	7.3	7.5	8.0	7.4	7.5	7.5	7.7	7.7
		8.2			7.4			7.6			7.6			
H29	5月	8.6	8.1	8.1	7.7	7.5	7.0	7.6	8.1	7.5	7.5	7.8	7.8	7.8
		8.3			7.4			7.7			7.7			
	12月	8.8	8.5	8.3	8.1	7.5	7.6	7.9	8.3	7.7	8.0	8.1	8.1	8.1
		8.5			7.7			8.0			8.1			
H30	5月	8.6	8.3	8.4	8.1	7.7	7.6	7.9	8.2	7.6	7.7	7.9	8.0	8.0
		8.4			7.8			7.9			7.9			
	12月	8.6	8.4	8.4	8.2	7.5	7.5	8.0	8.2	7.9	8.1	8.0	8.1	8.1
		8.5			7.7			8.0			8.1			

効果が見えてきた少人数教育のポイント

○　学校教育の目標と生徒の実態から、効果が最も表れる集団を構成すること。

～よりよい社会の担い手を育て、子ども一人一人の人生を幸せにするために～

少人数教育

子どものよさやつまずきを意図的・計画的に見取り、支援し、認めて、一人一人を生かすふくしまの教育

自分にはよいところがある！ | 学校に行くことが楽しい！ | みんなで協力してやり遂げることができてうれしい！

福島県内全ての小・中・義務教育学校が少人数教育実践校

学校経営・運営ビジョンに少人数教育の方策を位置づける。

（「目的」、「戦略」、「期待する成果」を校内で共有）

■ **少人数教育改善・充実のための視点**

- □ 少人数教育の目的を**全職員が理解**している。
- □ 少人数教育の目的を**保護者に説明**している。
- □ 少人数教育の**明確なプラン**を立てている。（ＰＤＣＡサイクルの確立）
- □ 一人一人が「分かった」、「できた」、「役に立った」、「がんばった」と実感できるように、日々、個に応じた言葉かけや**称賛・価値付け**等を行っている。

「ふくしまの『授業スタンダード』」・「ふくしまの『家庭学習スタンダード』」を少人数教育の視点から活用する。

少人数教育のよさを生かした授業構想

■ 子どもの実態を把握する。
- □ 子ども一人一人のよさ
- □ 想定されるつまずき
- □ 調査や観察などによって把握した課題

■ 指導の計画を立てる。
- □ 把握した課題やつまずきへの具体的な手立て

Ｋ子さんに理解させるために、「〇〇」と助言してみよう。

Ｙ男さんのよさを見取って、発表させたいなあ。

少人数教育のよさを生かした机間指導

■ 学習の様子を見取る。
- □ ノートやワークシートを「観る」。
- □ 学習の進め方や理解の実態を「診る」。
- □ 学びの様子を把握し、個に応じて「看る」。

■ 評価する。
- □ つまずきのある子どもには、具体的に支援する。
- □ 学習の深まりのみられる子どもには、学習の支援者として役割をもたせたり、別の立場から考えさせたりする。

■ 話合いの状況を見取る。
- □ 子ども同士の関わりを「観る」。
- □ 学習の進め方や理解の状況及び変容などを「診る」。
- □ ペアやグループの学びを捉えて「看る」。

自己マネジメント力

子ども一人一人に、
Ｒ（自分を知る）、Ｐ（計画する）、
Ｄ（自ら学習する）、Ｃ（確かめる）、
Ａ（見直す）の機会を保障する。

望ましい人間関係

- □ 個に応じた言葉かけをする。
- □ 子どもたちを具体的にほめて、認める。
- □ 子ども一人一人に対して同じ距離感で接する。
- □ 違いを認め、尊重する。
- □ 助け合い、教え合う集団づくりに努める。
- □ 「自己有用感」を高める指導や支援をする。

少人数教育

人数が少なくなって楽になったと思っていませんか？

少人数教育が当たり前と思っていませんか？

従来の一斉指導 ⇒ ●教育効果は変わらない

一人一人の子どもたちと関わることができる時間の増加

教員の意識改革

○　一人一人の子どもにきめ細かな指導の実現
○　日々の指導力向上のための研鑽

指導方法の工夫

○　少人数教育だからこそできる授業の実施
○　ＴＴ、習熟度別等、児童生徒の実態にあった工夫

弾力的な運用

○　各学校の実態を考慮した制度の趣旨を生かした運用
（複数学級型、習熟度別、教科担任制、タテ持ち、加配教員の戦略的活用等）

一人一人を授業で生かすために

一人一人の資質・能力の成長をていねいに見取る

＜個の学びの変容を把握するための工夫＞

○　**個票による学びの事実の累積**
○　週案や学級経営誌等の活用

＜指導形態の工夫＞

○　複数学級合同授業の工夫
- 小学校における教科担任制の工夫
- 話合いの形態の工夫
- ペア学習・グループ学習の工夫
- 学習形態の工夫

○　複数学級担任制の導入
- 補充的な学習・発展的な学習の設定
- ティーム・ティーチング
- 習熟度別学習の継続的実施
- 課題選択学習、方法選択学習等の実施

＜指導方法の工夫＞

○　**一人一人の学びの変容を記録**し、個の特性を理解する。
○　**一人一人の認知スタイルを理解**し、個に応じた手立てを工夫する。
○　**一人一人の知識・技能の定着度を把握**し、確実な定着に向けた指導方針を確立させる。
○　**一人一人の思考力、判断力、表現力等を把握**し、日々の授業でよりよく伸ばすための授業づくりの在り方を明確にする。　　など

学校生活で一人一人を生かすために

＜望ましい集団づくり＞

○　互いに認め合う場の設定・・・そのためには、まず教師がよさを認める（価値付ける）
○　自分の立場や考えを明確にした弾力的なグループ編成
○　相手の立場や考えを理解しようとする態度の育成

＜所属感、自己有用感をもたせる工夫＞

○　役割分担の明確化による責任感と達成感の感得
○　**教師による個人内評価と児童生徒同士による相互評価**
○　**自己評価等**による振り返りの場の設定
○　**教師の協働による情報収集と共通実践**（多くの目で一人一人を見る）